

脱温暖化センターひろしま

令和7年度事業計画

資源循環や家庭の省エネを推進

脱温暖化センターひろしまでは、2050年カーボンニュートラルに向け、地球温暖化対策地域協議会、公衆衛生推進協議会、行政、企業と連携しながら、事業を実施しています。

的に、内窓を設置するウィークショップを開催予定です。参加者自らが断熱材の切り出しや設置を体験することで、理解を深めます。



イベントなどで回収BOXを設置し、プチプチ®を回収

令和7年度に計画している、脱温暖化センターひろしまの事業をご紹介します。皆さんの地域でも、環境に優しい取り組みを実施しませんか。

①省エネ住宅の普及促進
住宅の断熱について、冷暖房費などのエネルギーの削減だけでなく、健康に繋がる効果について学ぶことを目的に、内窓を

②プラスチックの資源循環
家庭から出る気泡緩衝材(プチプチ®)を回収して、またプチプチ®に生まれ変わらせることで、焼却処分

③子ども服の譲渡会
地球温暖化対策地域協議会、公衆衛生推進協議会、行政、企業(川上産業株式会社)との協働事業です。

④うちエコ診断
家庭向けに、広島県実施の省エネ住宅の促進事業や家電買い換え事業を紹介し、うちエコ診断などを通じて、家庭の行動変容を推進します。



昨年度は廿日市市地御前市民センターに内窓を設置し、地域住民に内窓の効果を伝えた(上)、昨年度実施した子ども服の譲渡会は多くの人でにぎわった(下)

海田町公衛協

子育て世代に楽しく備えるメッセージ

井戸登録呼びかけと簡易トイレ展示

6月8日(日)、「海田町防災フェア2025」が海田町役場で開催されました。2年目の催しで、海田町が主催し、警察・消防・自衛隊・気象庁・公衛協などが協力して実施されました。

VRゴーグルを使った災害体験ブースや救命講習講座、伝言ダイヤル体験ブース、防災食の試食や配布ブースなどの防災について学べるコーナーや、制服の試着ブース、車両展示、災害救助犬のデモやふれあいといった子どもたちが楽しめるコーナーなど、多くの出展でにぎわいました。

海田町公衛協は、ブースでオリジナル缶バッジ工作を行い、子ども連れ家族を集客し、「家や近所に井戸がないですか」「家の近くに頼れる水場がありますか」「簡易トイレを使ってみたことはありますか」などを保護者に話しかけ、公衛協で登録を進めている災害時の共助利用井戸の啓発や登録の協力を呼びかけたほか、簡易トイレを展示し、



公衛協の取り組みについて説明を聞く竹野内海田町長(写真右)

「いざというときも生活の安心安全を担保するために、一度は使ってみよう」と呼びかけました。

公衛協ブースには海田町長も訪れ、公衛協で作成した災害時共助井戸マップや簡易トイレの展示の説明を聞かれました。

今回の防災フェアでは、小さな子どもを連れた若い家族層の参加が目立ちました。楽しく学べる防災フェアをきっかけに、自助・共助の実践につながることを期待します。

当協会では、イベントでの展示や防災訓練の教材として、簡易トイレセットの貸し出しや講師の派遣を行っています。なお簡易トイレセットには、簡易トイレのほかテントや子ども用便座などの周辺グッズが含まれています。我がまちの公衛協活動で活用したいという要望がございましたら、お問い合わせください。



簡易トイレの説明を受ける親子

(地域活動支援センター)

基礎研修とセットでリーダー養成

各地で続々実施中

今年度から、30〜60分程度の短縮版の専門研修を、要望に応じて

行っています。公衛協の総会や役員会、研修会など既存の集まりで

利用でき、基礎研修と併せて実施すること

で、公衛協の役割や活動の再認識、推進委員のスキル向上が図れます。

従来からの専門研修は、当協会が日程や場所を指定して、1日または1泊2日で開催していましたが、

早速、「基礎研修とフレイル総論」「基礎研修と不法投棄抑止」「基礎研修と事業見直し(PDCA)」「基礎研修と食品ロス総論」などの声をいただいておりまして、これらの声にお応えして、研修内容を細分化することで短時間の研修が可能となり、集まった機会を利用して、公衛協に必要な情報やノウハウ



三次市三和地区では、脱温暖化の視点から食品ロス問題についての研修を行った

三次市三和地区では、脱温暖化の視点から食品ロス問題についての研修を行った

三次市三和地区では、脱温暖化の視点から食品ロス問題についての研修を行った

三次市三和地区では、脱温暖化の視点から食品ロス問題についての研修を行った

三次市三和地区では、脱温暖化の視点から食品ロス問題についての研修を行った

三次市三和地区では、脱温暖化の視点から食品ロス問題についての研修を行った